

日本遺伝学会 第90回大会 男女共同参画公開ランチョンワークショップ 記録

「やまとは くにのまほろば!？」

日時：2018年 9月19日 12時10分～13時30分

場所：A会場（大講義室）

午前のセッションがややずれ込んだため、10分ほど遅れて開始となった。

小林会長の挨拶では、最近の東京医科大学の女子学生の受験者に対しての点数操作を話題に取り上げ、女性の働く環境の整備こそが重要であると問題提起があった。

次に、篠原美紀幹事による「日本遺伝学会の男女共同参画の現状」の発表。学生会員中の女性割合が40%ほどで頭打ちにあること、一般会員の女性比率は1割程度で、大学院修了後、女性が定着していない現状が続いている。

次に発表予定の井上美智子先生は関西空港のトラブルのため参加できず、急遽、奈良先端大学院大学男女共同参画室の二階堂祐子さんの講演となった。「先端科学研究を担う研究者のキャリアアップを支援する～NAIST 男女共同参画室の取り組み～」というタイトルで、育児期の研究者のニーズに合わせた取り組みが紹介された。1つめはアカデミックアシスタントで、研究補助員をつける取り組み。常時申し込み可能で、決定も迅速に行われている。2つ目は在宅勤務制度で、上司の許可さえ降りれば、自宅で勤務可能な制度である。3つ目はプラスα保育で、学内一時託児施設、出張時保育支援、ベビーシッター利用補助などの多彩な取り組みが紹介された。他にもスタートアップ研究費の充実、女性専用休憩室やWLB相談窓口の設置、などの活動も紹介された。

次は、奈良女子大学の安田恵子先生による、「奈良女子大学における男女共同参画の取り組み」の講演。奈良女子大は比較的小規模の大学なので、キメの細かい取り組みが行われていた。2012年に男女共同参画「室」から男女共同参画「機構」になり、啓発活動を進める推進本部、地域・学生とのネットワークで迅速かつ安全な支援の仕組みを作るダイバーシティ研究環境支援本部、学生が将来像を具体的に描けて進めるよう活動を行うキャリア開発支援本部、の3つの本部が活発に活動を行い、男女共同参画をリードする人材の育成を行なっている様子をご紹介いただいた。

シンポジウムの開催時間が迫っているために十分な討論時間を取ることができなかったが、教員の公募の際に、女性教員からの応募を増やすような取り組みが必要なのではないか、そのために何か取り組んでいることはあるか、という議論が行われた。

80食のお弁当が足りなくなるくらいの参加者がおり、演題も非常に興味深く参考になるものばかりで、有意義なワークショップであった。